

“チーム荊崎” まちづくりミーティング

ふるさと

「地域の外からの目線で考えるまちづくり」

各地で人口減少対策や地域活性化策などが課題となっており、本市でも現在これらについて各種施策の実施や検討をしています。今回のまちづくりミーティングでは市外からの移住者（Uターン者含む）や現在ふるさと荊崎を離れて暮らしている方々などに、外からの視点で本市の魅力や将来像、地域を元気にする施策などについて意見交換をしていただきました。

当たり前すぎて見落としがちなこと、外からの目線で考えると荊崎の強みや魅力であったり、実は弱点であったりということがあります。こうした意見も荊崎を活性化させる要素として、今後もまちづくりミーティングを続けていく予定です。（※ 今回掲載する内容は参加者の意見の要旨です）



前列向かって左から 野田ひろみさん／上原美奈さん／内藤久夫市長／名取裕子さん／長坂小百合さん

後列向かって左から 細井雅也さん／大野玲子さん／野村大助さん／野田敬一さん／西田遥さん／堀内恵悟さん
／横森政純さん



昨年11月に市長に就任して以来、こういった場を持てることを楽しみにしてきました。今回は移住者の方々などの目線で地域の活性化について意見交換をしていただきましたが、荊崎の良いところや悪いところを、外からの視点で忌憚なく話していただけると新しい発見があるのではないかと考えています。

また、こういった意見交換の場を、今後も継続して実施していきたいと考えていますのでよろしく願います。



内藤 久夫 市長

**生活するうえで
良い便利さが魅力**

新潟県出身で、横浜で大工として働いていましたが、自然エネルギーを利用した家作りをしたくて日照時間が長い山梨に興味をもちました。スキーやドライブで訪れた荊崎の雄大さと、荊崎の自然の良さ、生活するうえでの丁度良い便利さが魅力な事から荊崎に住むことに決めました。

人口対策には、何をあいても子育てにやさしい街づくりではないでしょうか。子育て中の親の考えを理解していただいた上で、思い切った施策を展開していただきたいと思います。

また、たくさんの方の若い人達に荊崎に来てもらいたいと思うのですが、その方々が住む場所（宅地）の確保という課題もありますね。

今回はこういった話し合いの場ができたことを嬉しく思っており、今後の展開がすごく楽しみです。



名取 裕子 さん

ニコリが魅力の一つ



細井 雅也 さん

兵庫県出身で結婚を機に蕨崎に移住しました。普段は移動力フエを経営しながら、県内各地のイベントや行事などに出席しています。

蕨崎の魅力の一つに、市民交流センター「ニコリ」があると思います。市内外から多くの方々が来館していると聞きますが、特に子育て支援センターが開催するフリーマーケットには多くの子育て中の方々が来場して人気です。しかし残念なことに、3階での開催ということもあり、市内の方であつてもイベントがあることを知らない方も多々います。例えば、1階で人気のイベントを開催したらどうでしょうか、さらに多くの方がニコリを利用するようになると思います。

また、明野のひまわり畑のように、花を活用した観光地作りも良いと思います。花は期間が長いので、多くの観光客を呼び込めると思います。

現代の若者は地方での暮らしに憧れている

出身は蕨崎市ですが、就職などで各地での生活経験があるほか、ニュージランドでワーキングホリデーも経験しました。現在は市内で妻（後述のひろみさん）と一緒にパン屋を経営しています。

私は、現代の若者は以前に比べて都会での暮らしよりも、地方での暮らしに憧れを感じている、あるいは地方で働く方がかっこいいと感じていると思います。東京の満員電車で揺られながら生活をするよりも、地方での田舎暮らしの方がずっと魅力的だと考えている方、特に若い方々は多いと思います。そういった方々をもっと積極的に蕨崎に呼び込む施策を展開したらどうでしょうか。例えば、無線LANなどのインターネット環境をもっと充実させることで蕨崎をPRしたらどうでしょうか。



野田 敬一 さん

東京に近いのが強み

出身は埼玉県で、結婚を機に蕨崎にきました。夫と一緒にパン屋を始めるまでは、自分で仕事をしており、月に3回程度東京の企業に通いながら、自宅で収入を得る仕事をしていました。そういった経験から、蕨崎ですごく東京から近いんだと感じ、これが蕨崎に住む魅力の一つだと思っています。

また、子育てしやすい環境の場所に人が集まるというのは当然だとは思いますが、これに関連して、蕨崎が日本一になれるのは防災面ではないでしょうか。地震に強いということからも何えるように、災害に強いというのは、子育てをする上でとても安心感があります。それと消防団も積極的に活動をしていて、特に若い方々が参加しているというのが地域にとつてすごく良いことだと思っています。



野田 ひろみ さん

新規就農者が安心して農業に従事できる街に



上原 美奈 さん

蕨崎出身ですが、一度就職などで蕨崎を離れ、夢だった農業を目指すため、蕨崎に戻ってきました。

私は実家が農家ではないことから、農業を営む場所や設備などを持ち合わせていません。農業従事者として独立し、生計をたてることはとても困難であり、このように感じている新規就農者は多いと思います。このため新規就農者を支援する施策を検討していただけると嬉しいのです。例えば、新規就農者が共同で使用できる倉庫や作業場、農作業の拠点になるような施設を設置していただけると本当に助かります。新たに建設しなくても、現在使われていない施設などを再利用するだけでも良いと思います。新規就農者への支援が充実していると、もっと多くの就農者が移住してくるのではないのでしょうか。

里山の景色と 便利さが魅力

出身は埼玉県で、夫の実家が山梨だったことから、蕨崎へ移住してきました。

蕨崎には、自然があり、里山があり、駅があり、中央道のインターチェンジもあるという、自然のよさと便利さを兼ね備えているところが魅力だと思います。

しかし、時代の流れもあるのですが、民間のメガソーラー施設などが徐々にではあります。たしかに自然エネルギーの普及という観点からは必要かもしれませんが、それを理由にすべてが良いのではなく、例えば、自然や景観的に考えると多少の規制も必要があるのではと個人的には考えます。特に蕨崎は富士山の眺望が魅力ですから、ソーラーについても考える必要があるかもしれませんね。



長坂 小百合 さん



大野 玲子 さん

自然と人の優しさに癒 されました

私は栃木県出身で、現在は穂坂町に住んでいます。18年前に、甲府に住んでいましたが、その当時から夫は甲斐駒ヶ岳が、そして私は富士山がとても好きでした。その後仕事の関係で茨城県へと移り住みましたが、山梨への想いを忘れられず、山梨を心のふるさとのように感じています。いつか山梨へ帰りたいと思います。こうしただけから兼ねてより穂坂のぶどうを送ってくださいいた農家さんから土地を譲り受けたことをきっかけに、穂坂の穂坂町に移住してきました。私が穂坂町に住んで感じたことは、自然の豊かさ、周囲の方々のやさしさです。穂坂に来て心が癒されるようになりました。今では穂坂町に恩返ししたいとまで感じています。

空き家対策にシェアハウスのノウハウを

以前は北杜市に住んでいましたが、現在は穴山町に住んで、山梨大学に通う学生です。大学では、甲府を拠点に大学生と地域や高校生などを繋ぐ活動をしているほか、シェアスペースやシェアハウスの取り組みなどもしています。



穂坂市は空き家バンクの取り組みが弱いと伺いましたが、空き家バンクにシェアハウスなどのノウハウを活かすことも可能かもしれません。また、先ほど新規就農者に関する支援という話もありましたが、就農者用のシェアハウスの取り組みも実際に行なっている自治体もあるので参考してみてください。



西田 遥 さん

安心して子どもを産める環境づくり

埼玉県出身で、料理の修業をしながら各県を巡り、現在は市内でレストランを経営しています。もともとワインが好きで、山梨のワインを普及させるため、自分のお店でも県産ワインにこだわって出しています。



野村 大助 さん

先ほど意見が出たように、安心して子育てができる街には確かに人が集まると思います。また、個人的な考えですが、穂坂には子どもが多いという印象があります。

地域活性化とは最終的には人口対策に行き着くと思います。確かに、外から人を呼び込むことも大切かもしれませんが、今いる若者が安心して子ども産み、さらにその子どもが子どもを産むという環境を維持できれば、穂坂市は自然と活気にあふれる街になっていくと思います。

若者を受け入れる地方の体制や仕組みづくりが必要

北杜市長坂町出身で、穂崎高校卒業後は神奈川県の大宮市に通っており、山梨を離れています。また教育活動に興味があり、現在は地元で教育に関するボランティアもしています。穂崎市在住ではありませんが、外からの視点ということでも今回参加させていただきしました。

先ほど野田さんが現代の若者は、地方での暮らしに憧れているという話がありました。まさにその通りで、これについては研究や調査もされているのですが、若者の意識が変わりつつあるのは事実だと思います。そういったことから、若者を受け入れる地方の体制や仕組みもこれからは必要になってくるのではないかと思います。



堀内 恵悟 さん

仲間とのコラボレーション（連携）が気軽にできる地域性が嬉しいですね

出身は穂崎市ですが、23年間コンピュータ関係の仕事に就いており、南アルプス市に住んでいました。両親も高齢になり家業のブドウ栽培を継ぐため、穂崎へと戻ってきました。農業は自然との対話や調和をしながら取り組むことができる仕事でやりがいや生きがいを感じながら日々過ごしています。栽培したブドウは農協や直売所等に出したりするほか、前述の野田さんのパン屋に出してレーズンなどに活用してもらうなど仲間とのコラボレーションが気軽にできる地域性がとても魅力的ですね。



横森 政純 さん

■問い合わせ

企画財政課企画推進担当
(内線35051~35057)